審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	甲　第 1317 号	氏名	矢 野　雄 太
審査担当者	主 査	大島孝一 (印)	
	副主査	赤木由人 (印)	
	副主査	島村拓司 (印)	

主論文題目：

Sulfite Oxidase is a Novel Prognostic Biomarker of Advanced Gastric Cancer

(Sulfite Oxidase は進行胃癌における新しい予後マーカーである)

審査結果の要旨（意見）

ミトコンドリアに存在する酵素である Sulfite oxidase（SUOX）の進行胃癌 98 例の病理学的検討より、SUOX 低発現群に分類されたのは 55 例、SUOX 高発現群に分類されたのは 43 例であった。低発現群と高発現群の間に分化度の有意差はなかったが、低発現群の方が pStage IV の症例数は多く、OS の中央値も高発現群に比べて有意に短かいことが判明した。単変量解析および多変量解析では、SUOX 低発現と pStage が独立した予後因子であった。SUOX を用いる事で分化型胃癌の中から予後不良群を抽出することを可能であると考えられた。今後、SUOX は胃癌の増殖・進行の機序を解明するための有用なバイオマーカーになる得る可能性があると考えられた。審査にあたり、今後の展開、また研究内容に対する質問にも的確に回答が得られた。この論文は充分に学位に値するものと考えられた。

論文要旨

ミトコンドリアに存在する酵素である Sulfite oxidase（SUOX）は、舌癌や前立腺癌など悪性上皮性腫瘍の悪性度と相関があるとされているが、消化器癌での意義についての検討はない。今回、進行胃癌に対する SUOX 発現の意義について病理組織学的に検討した。進行胃癌の切除症例 98 例より Tissue microarray 切片を作成し、SUOX の発現性を評価した。また、分化型 38 例と未分化型 60 例の SUOX 発現についても比較を行った。胃癌 98 例のうち、SUOX 低発現群に分類されたのは 55 例、SUOX 高発現群に分類されたのは 43 例であった。低発現群と高発現群の間に分化度の有意差はなかったが、低発現群の方が pStage IV の症例数は多く（$p<0.001$）、OS の中央値も高発現群に比べて有意に短かった（$p=0.02$）。単変量解析および多変量解析では、SUOX 低発現（$p=0.039$）と pStage（$p<0.001$）が独立した予後因子として検出された。また分化度と併せた評価では、分化型 SUOX 高発現群は、同じ分化型低発現群や未分化型の胃癌に比べて OS が有意に長かった（$p=0.003$）。SUOX は胃癌における独立した予後因子と考えられた。また、SUOX を用いる事で分化型胃癌の中から予後不良群を抽出することを可能であると考えられた。今後、SUOX は胃癌の増殖・進行の機序を解明するための有用なバイオマーカーになる得る可能性があると考えられる。